

# 「オンデマンド文書管理」の真髄は 「信用ある現場の人材」をいかに確保 するかに尽きます



アズコムデータセキュリティ社長

**齋藤 健吾**

さいとう・けんご

「オールデジタル化」が進まない  
ことを逆手に取った新ビジネス

——生業の倉庫業から一歩踏み出し情報セキュリティの世界に足を踏み入れたきっかけは。

齋藤 従来型のトランク事業とは、要するに「アナログデータを単に預かって顧客からフィーを頂戴する」商売で、保管時に様々なセキュリティを担保し、安全・安心を提供するというコンセプトで進めてきました。しかしデータのデジタル化が進展するにもかかわらず、これに対応するサービスを提供出来るような基本コンセプトがないのではないのか、との疑問が、「情報セキュリティ」に参入した直接のきっかけです。市井を見渡すと、デジタル化ソフトが各ソフトウェアメーカーから星の数ほど出されました。しかし、これらを使いこなしているユーザーが果たしてどれだけいるでしょうか。「オールデジタル化」というゼロサム的な発想を引っ提げて華々しく登場したのは

いいものの、現実問題として職場にあるデータの多くはいまだに紙のドキュメントで、その他多種多様な媒体にも蓄積されています。このため「オールデジタル」を強行するとかえって違和感を覚えることになり、コストも非常に掛かります。

そこで私たちは、「紙」でお預かりし、必要な箇所だけを電子化して提供する「折衷案」的なソリューションを編み出したのです。ただしコストパフォーマンスに優れているので、契約書保管などで需要も徐々に増えはいるのですが、もともと市場に浸透するにはいくつかの課題をクリアしていかなければなりません。

——それは具体的に何か。

齋藤 1つ目は「ビジネスコンテンツの適用範囲が狭すぎる」点です。例えば「契約書以外にどんな場面でオンデマンドが使えるのか」との問いに対して、的確な回答をわれわれは市場に与えていなかった、ということが挙げられます。これは大いに反省すべきで、具体的な応用プラン